7/1　1,2

1.創傷ケアの基礎知識

＊　再生治癒：創傷前と同じ段階に回復し、瘢痕や傷跡が残らない・

瘢痕治癒：Ⅱ度真皮層より深い創で、創内の肉芽形成、創縁辺からの基底細胞による上皮化がおこり治癒する。付属器は再生されず、別の組織によって再構成される治癒。

＊創傷治癒過程の3段階

①炎症期：止血、殺菌による清浄化、壊死組織の除去

Wound bed preparation(創傷環境調整)

→壊死組織の除去、最近負荷の軽減、過剰な浸出液のコントロール、ポケットや陳旧性創縁の処理等

管理：前期〈感染予防〉―開放、洗浄、細菌剤の期間限定使用

　　　後期〈壊死組織の除去〉―外科的除去、自己融解、酸素製材の使用

②増殖期：肉芽形成と上皮化

　管理：創部の湿潤環境を整える、創の深さに応じた、閉鎖性ドレッシングの選択と使用

③成熟期：瘢痕組織の強化

管理：保湿、摩擦ずれ・外圧がかからないよう創保護

＊創傷治癒の形態

一次治癒（一時閉鎖）：手術創に代表する感染の無い切傷で、受傷後すぐに縫合したもの。

二次治癒：開放創のままで創傷治癒を進行させる

三次治癒、遅延一次治癒：一時、創を二次治癒状態の状態とし感染がコントロールされたのち縫合閉鎖

＊新たな創傷管理方法　→　陰圧閉鎖療法（VACシステム）

＊栄養管理

低栄養は治癒困難となる危険因子。必要エネルギー量摂取が重要

悦用エネルギー量が投与されている場合には微量元素を強化

＊創傷ケア時の看護

周囲皮膚の保護（テープによる剥離刺激、ふやけ）、ケア時の疼痛緩和、観察（炎症所見、出血、色調（血流）、硬さ、臭気、浸出液の性状etc…）

2.創傷ケアの実際　（2枚しかないのでレジュメ見た方が絵もあるのでいいと思います。）

・テープは180度、フィルムテープは0度で皮膚を押さえながらゆっくりはがす。

・ドレーン固定のテープはΩ型にする。